

北海道総合地質学研究センター 第 8 回研究セミナー 記録

発表者：関根達夫 (北海道総合地質学研究センター)

発表タイトル：幻の湖「古藤野湖」

日時：2018 年 3 月 3 日 (土曜) 13:00-15:15

場所：かでの 2・7 北海道立道民活動センター 620 号室 (札幌市中央区北 2 条西 7 丁目)

参加者：14 名. 内訳：会員 10 名 (在田一則, 前田仁一郎, 中川 充, 岡 孝雄, 嵯峨山積, 関根達夫, 山岸宏光, 山崎芳樹, 吉岡正俊, 中西 諒), 会員外 4 名

発表要旨：

2003 年, 最終間氷期勉強会で豊平川地質巡検を開催するにあたり, 豊平川周辺の文献を集めたり現地の下見を行った. その時, 南の沢八垂別墓地付近の支笏火砕流堆積物の露頭を見て, 石井次郎氏 (元北海道東海大学教授) が提唱していた豊平川の堰止湖の存在を確信した. その後も堰き止め湖の証拠が残っていないか現地調査を少しずつ行っていた.

2014 年に八剣山西口登山道の斜面に湖成層と考えられる地層を発見し, 日本地質学会北海道支部や日本第四紀学会で「4.1 万年前, 支笏火砕流堆積物 (Spfl) が豊平川を堰止めて”古藤野湖”を形成した」という題で発表した. 同年ようやく, 石井次郎氏の豊平川の堰止湖の論文 (1986) を見つけることができた.

2014 年以降も, 八剣山山麓の砥山沢川の河川工事の切土面に湖成層と考えられる青粘土を確認したり, 支笏火砕流堆積物の堰き止めダム上流端付近に当たる藤野地区に大きな切土面が出現し, 支笏火砕流堆積物以前の砂礫層や支笏火砕流堆積物を削って堆積した砂礫層を確認したので, 古藤野湖形成との関係を検討している.

今回は, 石井次郎氏の「石山・硬石山ダム湖」と「古藤野湖」について紹介する.

付記：

座長は嵯峨山がつとめた. 発表の最中においても極めて活発な議論が行われ, 研究セミナーらしい研究セミナーであった. 発表者が地形模型を持参した.